

能代第一中学校の「総合的な学習」を受け入れました

令和3年10月6日、能代第一中学校の「総合的な学習」を受け入れました。生徒達が総合的な学習の時間を使い、能代が「木都」と呼ばれるまでになった歴史を学び、現在の能代市の木材加工について課題を設定し、学習を進めていることから、当署に依頼があったものです。

当署では、木材加工が森林管理署の手を離れてからの過程であることから、対応の仕方について考えましたが、原木や製品を見てもらうことで、森林・林業なども一体的に考えてもらえたらと思い、引き受けることとしました。

当日は、3年生5名を学校から車に乗せ秋田県銘木センターへ。そ



【まずは座学から 生徒5名と先生】

この食堂を借りて、森林管理署の仕事（地拵え・植付けから伐採・搬出までの事業内容と販売業務）について座学を行いました。また、事前に提出された質問事項①現在、木材はどのように使われているか、②昔は、木材はどのように使われていたか、③他県ではどのように木材を利用しているか、④秋田杉の良さを詳しく教えて、⑤秋田杉にどのような需要があるか、⑥秋田杉は現在どこに生えているか、⑦能代市が木都のためにしていることはなにか、等について回答しました。



【原木の説明に興味津々】

その後、原木と製品の見学へ。銘木センターには10月8～9日に開催される秋田県銘木展示大会用に集められた高齢級秋田杉原木（当署出品100・102年生）220m3や天然杉、秋田杉、ヒバ、ヒノキなどの製品

がずらりと展示されており、銘木センターの瀬川理事長から説明を受けました。

理事長は、原木の木口を指しながら、柂目材と板目材の木取りの違いについてや秋田杉の特徴である目詰まりの良さ（年輪幅の均一さ）と色合いの美しさについて説明。「心材部の赤身がきれいだと言材部の白太との対照が際立ち製品にした時に良いものがとれる」とし、また、「木に節はつきものだが、少なければ少ないほど良い」とも話



【熱心にメモをとる生徒】

しました。製材業者は原木をどのように挽く（製品化する）かをイメージしながら買うもの

を決めており、それがうまくいって良い製品がとれた時はうれしいと話していました。

これに対して生徒達は、この説明に熱心に耳を傾けながら、時にはメモを取るなどしていました。また、生徒からは「ここに並んでいる丸太でどれが一番高いのか？」といった質問が出され、瀬川理事長は「全部の丸太をしっかりと見ていないのでなんともいえない」としながらも「入札番号1の原木が競り全体の



【今回の入札番号1はこれです】

流れを決めることから、比較的品質の良いものを配置している」と答えました。

次に、製品のある倉庫へ。数ある倉庫の中で特徴的な製品が並べられているところに案内されました。

理事長は、原木見学の際に話していた「柂目と板目」の違い、「天杉と造杉の年輪幅」の違い、「赤身と白太がどう製品に表れるのか」について説明。あわせて、製品が何に使われるのか等についても説明しました。生徒達は、興味深く聞き入っていました。



【製品の説明に聞き入る】

また、木材のもつ香りについても「樹種が違えば香りも違う」との話しを聞き、秋田杉、ヒバ、ヒノキでできた製品の香りを嗅ぎ比べていました。生徒達はそれぞれの違いにびっくりしながらも楽しんでいました。（様々な製品を比べた結果、神代櫨の香りが一番よかったようです）製品でも「どの製品に高い値段がつくのか？」という質問が出されましたが、理事長からは「買い手がほしい物をどう評価する



【どのにおいがいいかな】

かによって決まるので、ものによってはプライスレス」との話しがされ、そのことを聞いた生徒達は驚いていました。

生徒達は、自分たちが住んでいる能代市において、様々な原木からすばらしい木材加工品が作られ、全国に向け販売されていること等を実感して総合的な学習の時間を終了しました。

※能代一中のみなさん、これからも森林・林業、木材産業等に興味を持ち続けてください。お疲れ様でした。

また、説明をして下さった瀬川理事長、どうもありがとうございました。



【福井県産天杉で作られた製品】



【今回参加した5名】